『和歌山県環境学習アドバイザー派遣事業』
～県内で行われている学習会の中身とは？

和歌山県では、県民の環境学習の推進を図ることを目的に、環境分野の専門的知識を有する人材（環境学習アドバイザー）を登録し、県内の学校・市町村・事業所・住民団体等が実施する研修会等に無料で派遣しています。開始から20年目を迎え、これまでに延べ５万人以上が、本事業を活用した学習会等に参加しています。今回は、環境学習アドバイザー派遣事業について紹介します。

●環境学習アドバイザーってどんな人？

自然観察をはじめ、地球温暖化や海洋ごみ問題、ナショナルトラスト運動、再生可能エネルギーやSDGsまで、環境に関する幅広い分野の専門家が、環境学習アドバイザーとして活躍しています。また、アドバイザーは、学校や一般向けの講演会や観察会などの講師として経験も豊富であるため、専門的な内容でも参加者の年齢やレベルに合わせてわかりやすく教えてくれます。

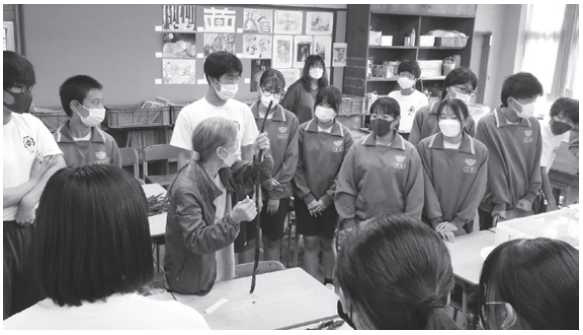
●実際の学習会の様子は？

令和４年10月、「木の文化から学ぶ」というテーマで、海南市立第三中学校の学習会が開催され、アドバイザーの奥野誠さん、佳世さんが招かれました。奥野夫妻は、和紙を使った美術家として活躍しており、田辺市龍神村の伝統的な和紙『山路紙（さんじがみ）』を復活させた方々でもあります。前任の美術の先生とのつながりで、同校に呼ばれるようになり、毎年学習会の講師を務めています。

生徒たちは、まず山路紙が作られる工程を学び、その工程を実際に体験しました。昔ながらの原料と方法で作られる山路紙は、出来上がるまでに繊細な作業と多くの時間が必要です。工程の後半にあたる紙漉（す）きで、ようやく紙らしい形となりますが、これで完成ではなく、これらは龍神村の工房まで運ばれ、圧搾・紙干しの工程を経てようやく完成となり、後日参加者にそれぞれが作った山路紙が届くそうです。

体験後、「紙の歴史や文化」、「紙と環境問題のつながり」についての講義がありました。講義の終わりに、誠さんから「紙の原料は、元々、世界のどこかに生えていた植物です。普段何気なく紙を使ったとき、この原料がどこからきたのか、思いを馳（は）せてみてください。暮らしの中で私たちが使う色んなモノについて、同じように考えることが大切です。」との話がありました。また佳世さんから「私たちの便利な生活の裏で、気候変動をはじめとする環境問題が深刻化しています。安い紙を使い続けるたびに、世界中で起こっていることを考えてほしい。君たち若い世代が、これからの持続可能な世界を君たちのアイデアや行動で作ってほしい。」との言葉がありました。

参加した生徒からは、「紙を一枚作るのに大変な工程があることを知り、紙の大切さを知ることができた。紙以外のものも大切にしたい。」や、「先人たちから受け継がれてきた紙漉きという文化を知り、さらに自分の知らないふるさとの伝統的な文化を学んでいきたい。」といった言葉がありました。また、主催者からは「山路紙ができるまでの工程の繊細さや難しさを自分の手で経験するのは貴重。『紙』という身近な存在ですが、それらがどんな素材からどのようにつくられたかを考えることで、工芸と環境の結びつきや、現代社会が抱える環境問題について生徒たちは豊かに学べたと感じる。」との感想があり、参加者の普段の生活を振り返るきっかけとなる学習会となったようです。



●環境学習アドバイザーの申込方法は？

申請方法やアドバイザーの詳細については、下記HPでご覧ください。

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/gakusyu/adviser/gaiyo.html

＊年間の派遣回数には限りがありますので、ご注意ください。